

長崎県佐世保市（国内 46 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要

令和 4 年 12 月 22 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 施設の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は標高 160m の斜面上部に位置し、周囲はシイを主とし、竹や雑木が混じる樹林で囲まれていた。
- ② 調査時、施設から約 160m 離れた池でカモ類が 3 羽確認された。また、農場周辺ではハシブトガラス 10 羽のほか、ハクセキレイ、ヒヨドリが確認された。
- ③ 当該農場は、2 段ケージが中央部に背中合わせの 1 列（2 レーン）及び両壁に沿って各 1 レーンの計 4 列からなる低床式開放鶏舎 7 棟で構成され、発生時は全ての鶏舎で採卵鶏が飼養されていた。鶏舎は 4 棟と 3 棟のブロックごとに内部通路で連結されており、通路と各鶏舎の境界に扉等の仕切りはない。

2 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、発生鶏舎（通報時 561 日齢）では通常 1 日の死亡数が 2～3 羽のところ、12 月 21 日に入口から見て奥側の壁沿いレーンの中間部からやや奥寄りのケージ上段で 13 羽のまとまった死亡が認められたことから、直ちに家畜保健衛生所に通報したとのこと。その後、再度死亡数を確認したところ、16 羽であったとのこと。
- ② 発生鶏舎において、通報日付近の産卵数の低下等の異状は認められなかったとのことだが、疫学調査時において、発生ケージ付近で異常卵が認められた。その他の鶏舎では特に異状は認められなかった。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では作業従事者 5 名が勤務しており、内訳は鶏の飼養管理及び集卵業務に従事する正社員 4 名と、主に集卵作業を行うパート職員 1 名とのこと。
- ② 鶏舎ごとの担当は明確には決まっていないとのこと。

4 施設の飼養衛生管理

- ① 農場入口にはチェーンのゲートがあり、立入禁止看板が設置されていた。
- ② 飼養管理者によると、従業員及び来場者が衛生管理区域に入る際は、衛生管理区域入口付近に設置された動力噴霧器及び手指洗浄用の設備で車両消毒及び手指洗浄を実施しているとのこと。
- ③ 従業員は出勤後、衛生管理区域入口付近の資材倉庫内で、衛生管理区域専用の靴に履き替え、私服の上に専用作業着を着用して作業に従事しているとのこと。鶏舎に入る際は、ブロックごとに 1 か所ある出入口において鶏舎専用長靴に履き替えて踏み消毒（逆性石鹼、2～3 日に 1 回交換）を行い、手指消毒を実施しているとのこと。
- ④ 飼養管理者によると、従業員以外の来場者としては、飼料会社、集卵業者等の外部業者が挙げられるが、各自が持参した当該農場専用の衣服及び長靴を着用しているとのこと。
- ⑤ 農場内は秋から春にかけて 2 回/週のペースで消石灰散布を行っていたとのこと。
- ⑥ 当該農場は 120 日齢の大雛を導入しており、鶏舎ごとのオールイン・オールアウトを実施している。
- ⑦ 当該農場の鶏舎は自然換気を行っており、ファンはほとんど使用しないとのこと（なお、発生鶏舎にはファンの設置はなかった。）。鶏舎側面の開口部外側には金網（1.5cm×10cm 程度）と防鳥ネット（2cm×2cm 以下）があったが、発生鶏舎の金

網の接地部分の隙間及びネットの破損が見られた。

- ⑧ 飼料は飼料会社から購入した配合飼料を給餌しており、屋外に設置された飼料タンクから、鶏舎内のラインを通して自動で給餌する構造となっていた。飼料ラインの鶏舎導入部分に小動物が侵入可能な隙間が認められ、飼料ホッパー入口にはネット等の設置はなく、飼料パイプ上部には埃の堆積がほとんど見られなかった。
- ⑨ 給与水は水道水で、タンクと給水ラインを介して給水していた。
- ⑩ 卵は各ケージから集卵ベルトにより1か所に集められ、手作業により集卵コンテナへ収容され、屋内通路に保管し、翌朝、集卵業者により引き取られる。
- ⑪ 鶏舎に除糞ベルトはなく、鶏舎床に落下した鶏糞を1～2か月に1度ローダーで搬出し、当該農場専用の堆肥舎で堆肥化している。堆肥は年2回近隣の耕種農家へ搬出されており、直近では10月とのこと。堆肥舎には防鳥ネットが設置されていたが、堆肥舎壁面のビニールは地面には届いていなかった。
- ⑫ 飼養管理者によると、毎朝、作業の開始時に健康観察を実施しており、回収した死亡鶏はほぼ毎日農場の敷地内の小型焼却炉で焼却しており、保管が必要な場合は小屋内の蓋付きペールに入れていたとのこと。
- ⑬ 獣医師の立入りが1か月に1度程度あったが、鶏舎へ立ち入った健康観察は行われていなかったとのこと。直近の立入は12月20日とのこと。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、農場周囲では、カラスなどの鳥類が確認されるとのこと。鳥類以外の野生動物はイノシシが見られるが、農場敷地内で確認したことはないとのこと。
- ② 飼養管理者によると、鶏舎内でネズミを見かけることがあり、ネズミ対策として殺鼠剤を設置していたとのことだが、調査時、発生鶏舎においてネズミとネズミのものと思われる断熱材のかじり跡、糞等を確認した。また、農場敷地内で複数のネコを確認した。

(以上)